

今月の1冊から 2017年4月～6月

4月『大きい1年生と小さな2年生』

古田 足日／著 偕成社



せは3年生くらい大きいけど、つうがくろのくらいみちがこわくてひとりでは学校へ行けないこわがり
で泣き虫の1年生まさやと、せがいちばん小さいことを気にしているけど、上の学年の子とケンカをし
てもないたりしないしっかりものの2年生あきよのおはなしです。「しっかりしなくちゃ」と思ったま
さやは、あきよのようになればしっかりできるのだと思い、あきよをよくかんさつするようになります。
ある日、あきよの大すきな花“ホタルブクロ”をとりに行ったあきよとまさやとともだちのまり子は、
やっどのおもいで手にいれたホタルブクロを3年生にじてんしゃでふまれてしまいました。あきよはく
やくしてないてしまいます。そのすがたをみたまさやはあきよにホタルブクロをとってあげるとやくそ
くするのです。1しゅうかんご、お母さんにしかられたまさやはいえでをし、おじいさんのいえにい
こうとしたけど、なかなかうまくいきません。そのとき思いだしたのは、あのあきよとのやくそくでし
た。まさやのだいぼうけんがはじまります。

5月『どうする ジョージ!』

クリス・ホートン／作 木坂 涼／訳 B L出版



ハリスはいぬのジョージにるすのあいだ、いいこにしていられるかい? とたずねます。ジョージは「も
ちろん」とこたえます。いいこじゃなかったことなんてないというジョージですが、ハリスのいないい
えにはみりょくてきなものがいっぱいです。おいしそうなケーキ、おいかけたくなるねこ、ねっこをほ
りたくなるはな… いいこにしているとやくそくしたジョージですが、なかなかいいこにはしてられま
せん。おちこむジョージ。そんなジョージをかえってきたハリスがさんぽへいこうとさそってくれるの
ですが、そのさきには… さあ、どうするジョージ! いろづかいやくりかえしがたのしいおはなしです。

6月『モチモチの木』

斎藤隆介／作 滝平二郎／絵 岩崎書店



5さいの豆太は、じさまと二人でとうげのりょうしごやでくらしています。豆太のおとうは、くまとく
みうちして死んでしまったほどゆうかんだったし、じさまは64さいのいままだ青ジシをおいかけるり
ょうしです。だけど、豆太は夜ひとりでおしっこにいけないほどのおくびょうな子どもでした。こやの
すぐまえにはデッカイモチモチの木(とちの木)がありました。その大きな木は夜みるとおぼけのよう
なのですが、こんや、しも月二十日のまよなかにはひがともりとてもきれいで、それはゆうきのあるこ
どもしかみることができないと、じさまがっていました。豆太はじぶんもみてみたいけれど、おくび
ょうなのでむりだとあきらめていました。ところがその日のまよなか、豆太が目をさますとじさまがは
らがいてえとくるしんでいるではありませんか。豆太はじさまをすくうため、ふもとの村のいしゃさま
のところまではしっていきます。わけをききたいいしゃさまは豆太をおぶってじさまのこやまできてくれ
ました。しも月二十日のまよなか、豆太はいしゃさまのせなかからモチモチの木にひがともるきれいな
けしきを見ることができました。

この絵本はきり絵でできていて、お話とよくマッチしています。モチモチの木にひがともったこうけい
は、いきをのむほどうつくしく、はくりょくのある絵本です。